



草津町の美しい景観で2賞受賞

2017年 アジア都市景観賞(国連主催)

2017年 都市景観大賞(国土交通省主催)

草津町 企画創造課

日本の温泉地は、3,084カ所にのぼります。

草津温泉は良質な温泉と豊富な湯量を誇り、古くから、日本随一の温泉地として名を馳せ、時代の変遷が感じられる街なみの中心には常に「湯畑」が鎮座し、そこから放射状に延びる通りや路地から温泉街が形成されております。

また、「草津よいとこ一度はおいで」の歌詞で知られる草津節や湯もみ、時間湯といった草津独自の文化もここから生まれました。そのように温泉では有名な草津町ですが、観光客数は1990年代の300万人をピークに、右肩下がりの状況が続き、2010年には、ついに265万人まで減少。その影響から町の財政は逼迫^{ひっばく}し、地域経済の活力も失われつつある状況にありました。

そこで、「付加価値の高いまちづくり」を行うため、ダイヤモンドの原石である湯畑を徹底的に磨き上げながら温泉街の魅力を高め、時代の積層が感じられる街なみの再整備を行うことで、風情や情緒を蘇らせながら、老朽化した収益施設の再生と町財政の健全化を図るという改革を同時に行うことに取り組みました。

この結果、街なみの趣や佇まいが観光客の心をくすぐり、特に若い女性を中心とした来訪客が増えはじめたことから、町財政や地域経済が好転し、2016年には、年間の観光客数が300万人を超え、バブル経済に沸いた1990年代を凌ぐ勢いで推移しており、温泉街には浴衣姿のお客様の笑顔と歓声が常に響くようになりました。



2016年度に整備された湯畑・西の河原公園の照明設備(面出薫氏デザイン)

「湯けむりのゆらぎ」に照明をあてることにより、唯一無二の幻想的な空間を演出している。

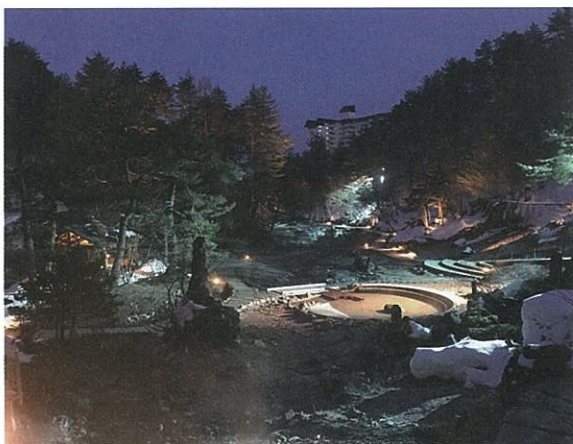


草津町は、町民とともに景観作りに関する条例などを整備し、昔ながらの温泉街の風情や情緒のあるまちづくりを進めています。こうした地道なまちづくりが国土交通省や国連に認められ、国内では、2017年6月に魅力的な都市空間や景観作りを進めた団体に贈られる『都市景観大賞』を受賞。公民が連携して生まれた温泉町の風情ある景観の魅力によって、観光客が増加し、地域経済が活性化するという、景観施策と観光戦略が極めて好循環していることを高く評価されました。またアジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目標とし、他都市の模範となるすぐれた成果をあげた都市、地域、大きなプロジェクト等を、国連ハビタット福岡本部ほかが表彰する『アジア都市景観賞』を受賞するに至りました。

そして、いつでも、どこからでも、賑わいのある温泉街の風情や四季折々の情緒、唯一無二である「湯けむりのゆらぎ」を多くの方々に紹介するため、現在4基のライブカメラを設置し、その映像をYouTubeにより配信しており、1日平均2万前後のアクセスを数え、日本国内はもとより、世界中から大変好評を戴いているところであります。

今後は更に温泉街の魅力を高めるため、湯畑広場に隣接し、古くから湯治客に愛され続けている「地蔵エリア」の再整備を予定しており、お越しになるお客様の心をなでるまちづくりを実施します。そして、草津温泉の懐の深さを多くの方々に感じていただきたいと考えております。

時代の積層を残しながら進化する草津温泉に是非お越しいただきますよう心からお待ち申し上げます。



湯畑の湯滝前広場の融雪化整備を行うとともに、草津にゆかりがあった岡本太郎氏のデザイン「草」(左)と足湯「滝の湯」(右)を整備(2016年)

